

感染症流行下における 災害派遣活動

Conducting Disaster Relief in the COVID Pandemic



2 0 2 0 年 1 1 月
防 衛 省

目次

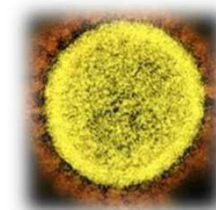
1. 感染症流行下における災害派遣活動の経験

2. 災害派遣時の感染防止対策



3. 被災者間の感染防止対策

4. 派遣隊員の感染防止対策



5. 災害派遣経験からの教訓事項

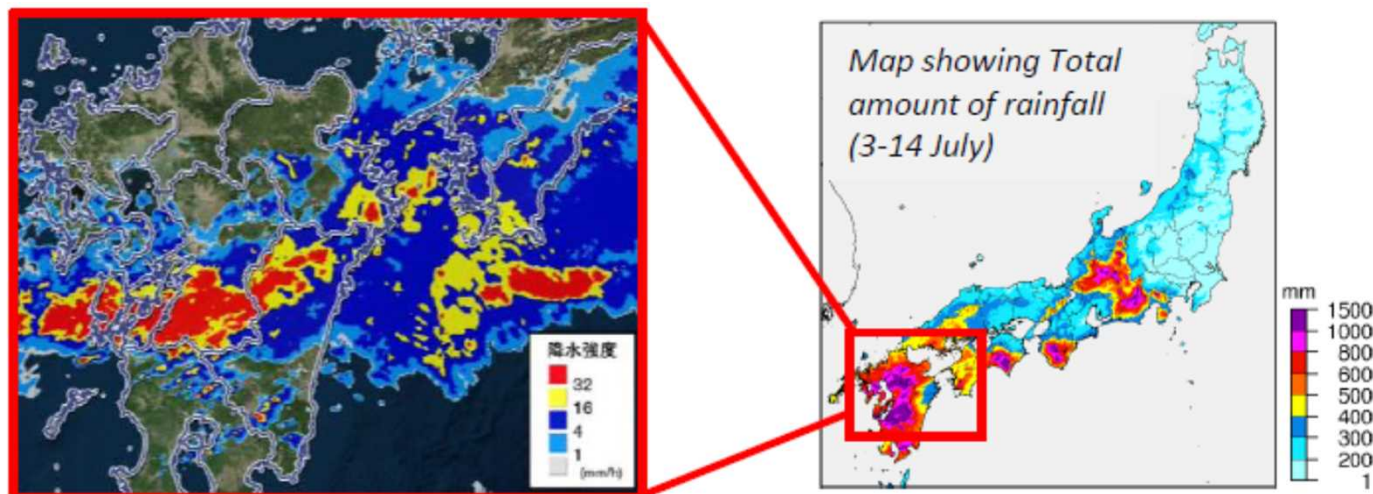
6. コラム -実際に派遣された隊員の声-

感染症流行下における災害派遣活動の経験-壹

3

●豪雨における災害派遣（2020年7月～8月）

- 本年7月に西日本（九州地方）で発生した記録的豪雨により発生した洪水（家屋への浸水を含む。）、地滑り等の災害への対応
 - ・ 死者78名、行方不明者3名、負傷者95名
 - ・ 家屋被害16,195棟（9月3日時点）



➤ 自衛隊派遣規模

- ・ 約2万人態勢（延べ人数約35万人）
- ・ 航空機270機、車両約13,000両



感染症流行下における災害派遣活動の経験-三

●豪雨における災害派遣（2020年7月～8月）

➤地上部隊、艦艇及び航空機による人命救助・行方不明者捜索、災害廃棄物、土砂、流木の処理、道路啓開、**生活支援**（水、食料等の輸送、給水支援、入浴支援）を実施。

- 延べ救助者数：延べ約1,780名
- 処理した災害廃棄物、土砂・流木等：延べ約5,830t
- 啓開した道路の距離：延べ約25km
- 輸送した水・食料等：延べ約230t
- 給水支援：延べ約290t
- 入浴支援：延べ約8,370名



➤約1か月間、活動に直接従事する隊員の中から、感染者を一人も出さずに2万人規模の任務を遂行。

感染症流行下における災害派遣活動の経験-参

●台風10号に係る災害派遣（2020年9月）

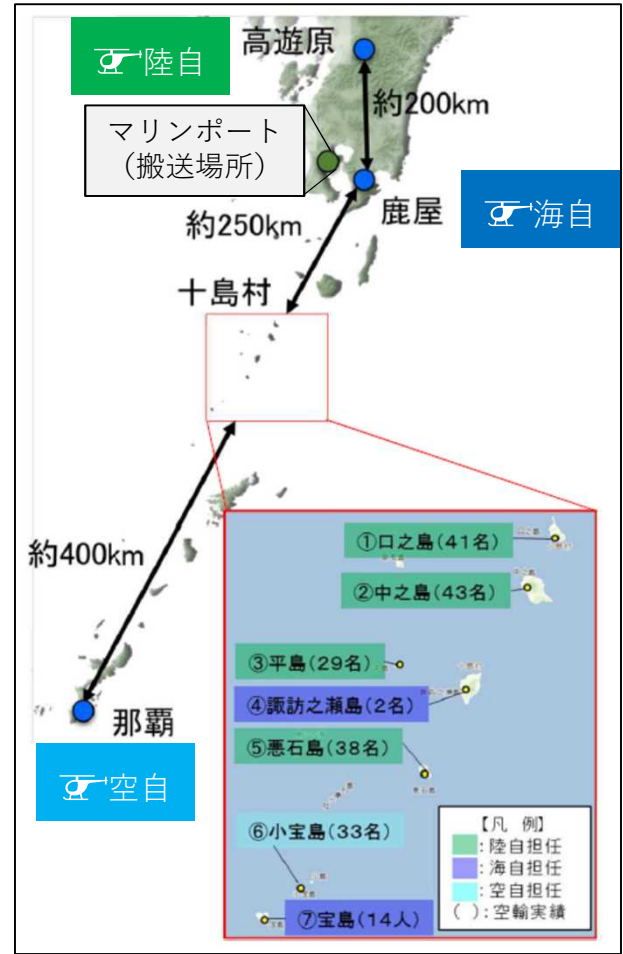
➤ 本年9月、九州地方に接近した台風10号への対応

- 人的被害 117名（死者・行方不明者・負傷者）
- 住家被害 894棟（全壊・半壊等含む）



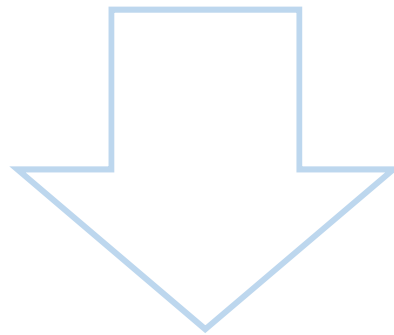
➤ 台風接近前、避難支援を実施。約200名の離島（7島）住民を本土まで陸海空各自衛隊のヘリコプターで輸送。

- ヘリコプター8機（CH-47、UH-60等）



災害派遣時の感染防止対策

- 人道支援・災害救援（HA/DR）の実施にあたっては、複数の避難者・被災者が集まる場が生まれることから、派遣隊員から感染させないだけでなく、被災者・避難者間で感染させ合わないための対策が必要。



具体的には？

被災者間の感染防止対策（輸送支援）

- 9月の台風10号への対応では、台風接近前に離島住民を避難させるため、7離島から合計200名を鹿児島県本土までヘリコプターで輸送。
- 輸送支援では、事前に自治体を通じて、避難者に対する風邪症状の有無の確認、マスクの着用、搭乗前の検温を依頼。搭乗直前には派遣部隊隊員による手指の消毒を実施。

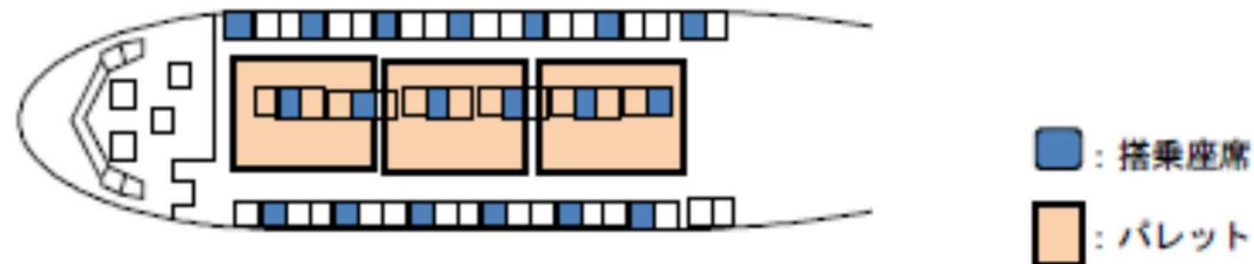


被災者間の感染防止対策（輸送支援）

- 新型コロナウイルス感染患者を空輸する際においては、患者と搭乗者との間での感染を防止するため、輸送に使用する航空機を養生。



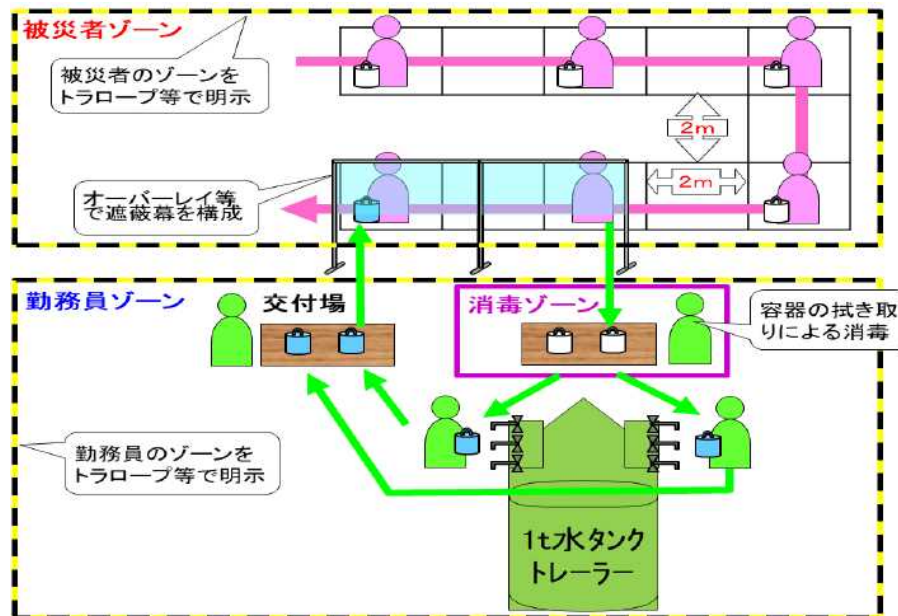
- 搭乗時、同列においては2座席間隔以上、対面においては互い違いに着座。



(イメージ)

被災者間の感染防止対策（給水支援）

- 7月豪雨災害への対応では、延べ約290トンの給水を実施。
- 給水支援では、派遣隊員と被災者をロープ等で明確に区分して動線を分けるとともに、被災支援者との間を遮蔽幕により仕切り、飛沫拡散を防止。
- 被災支援者の対人間隔は2mを確保。
- 給水の前に容器の拭き取りによる消毒を実施。



被災者間の感染防止対策（入浴支援）

- 7月豪雨災害への対応では、延べ約8,370名に対する入浴支援を実施。
- 入浴支援では、入浴前的手指消毒、検温を徹底。
- 浴槽を使用するかシャワーのみを使用するかは、各自治体と協議の上、決定。浴槽を使用する場合、遊離残留塩素濃度0.4mg/L以上の維持を徹底。



入浴前的手指消毒の状況（芦北町）



入浴前の検温の様子

派遣隊員の感染防止対策

- 派遣隊員の選定にあたっては、検温、問診等により、隊員及びその家族の健康状態を事前に把握。
- 派遣中は、活動開始前の検温、活動場所の消毒、マスク及び手袋の着用を徹底。
- 即応予備自衛官・予備自衛官を含めた派遣隊員のうち、感染者と接触した隊員については、任務終了後に抗原検査を実施。



災害派遣経験からの教訓事項

- コロナ禍での災害派遣に備え、あらかじめ、以下の資材を取得し、災害対処用備品として保管する必要。
 - 宿営地域で隊員間で感染を拡大させないための物品（防護幕、すのこ、換気のための小型サーキュレータ、除菌シート等）
 - 活動地域で隊員を感染から防護するための物品（フェイスシールド、ゴム手袋、アルコールスプレー、小型拡声器等）

【災害派遣必要資材見積（宿営地域）】

区分	パターンA		パターンB	
形態	ソーシャルディスタンス型（宿営用天幕内の空間を区画し、防護）		個人防護型（個人のベッド毎に防護）	
コロナ対策資材	品目	使用目的	品目	使用目的
	オーバーレイ 	飛沫感染防止	フェイスドーム 	飛沫感染防止
	ハンガーラック（オーバーレイ展開用） 		小型サーキュレータ 	換気・冷却
	すのこ 		アルコールスプレー 	消毒
	小型サーキュレータ 	換気・冷却	除菌シート 	個人除菌
	アルコールスプレー 	消毒	高圧洗浄機 	活動汚れ洗浄用
	除菌シート 	個人除菌		
	高圧洗浄機 	活動汚れ洗浄用		
その他	タープ 	遮熱用	タープ 	遮熱用
	乳酸菌タブレット 	隊員の健康維持	乳酸菌タブレット 	隊員の健康維持

【災害派遣必要資材見積（活動地域）】

区分	人命救助・災害廃棄物処理		生活支援活動			
			給水・給食支援		入浴支援	
コロナ対策資材	品目	使用目的	品目	使用目的	品目	使用目的
	バフ 	飛沫感染防止 熱中症予防	フェイスシールド 	飛沫感染防止	フェイスシールド 	飛沫感染防止
	電子警笛 	部隊指揮 安全管理	ゴム手袋 	感染防止	ゴム手袋 	感染防止
	小型拡声器 	部隊指揮 意思疎通	アルコールスプレー 	消毒	アルコールスプレー 	消毒
			小型拡声器 	部隊指揮 意思疎通	小型拡声器 	部隊指揮 意思疎通
					オーバーレイ 	飛沫感染防止

コラム-実際に派遣された隊員の声-

———現地の島においては、自治体の担当者の方としっかりと調整し、準備を万全にいたしました。

いよいよヘリが到着する段階においては、風速も強くなり、住民の方も不安な感じになってきているのが分かりました。

少しでも、安心していただこうと思い、笑顔で接することはもちろん、足腰の弱い年配の方には、背負ってヘリに搭乗していきました。

また、コロナ禍での避難ということもあり、不安を少しでも和らげられるように、アルコール消毒の勧奨等を行いました。

ヘリの中では、子供たちが不安にならないように声かけをしたりもしました。

到着後、体調に変化がないかをしっかりと確認し、鹿児島県の職員に引き継ぎました。

搭乗していただいた皆から「ありがとう。」と・・・

振り返ってみると、夜間のフライト、洋上でのフライト、コロナ禍でのフライト、妊婦、乳幼児、年配の方が搭乗したフライト等の1つのミスもゆるされない厳しい任務であり、普段からの訓練で培った重圧に耐えられる精神力と技術が任務達成に寄与できたと感じました。

次の任務に備えて、しっかりと訓練に励みます。

